平成31年度　練馬区立開進第二小学校　経営計画

学校教育目標	○意欲的に学ぶ子　○広く思いやる子　○進んで体を鍛える子		
目指す子ども（幼児・児童・生徒）像	**○意欲的に学ぶ子**　・学ぶ楽しさを知り生き生きと学ぶ子。 ・人の話をよく聞き自分の考えを深められる子。 **○広く思いやる子**　・自分を見つめ、自分の良さがわかる子。 ・人を思い、人とつながり、人に尽くせる子。 **○進んで体を鍛える子**　・目標に向かってチャレンジできる子。 ・継続して取り組める子。	目指す学校（教師像を含む）	**1. 活気のある学校** ・一人一人が主役となれるやりがいのある学校 ・向上心を持ってチャレンジできる学校 ・常に明るく楽しく暮らせる学校 **2. 安心して通える学校** ・いじめ、暴力、体罰のない学校 ・誰一人として一人にしない学校 ・ルールや規則をみんなで守る学校 **3. 学ぶ集団である学校** ・考える楽しさが分かる学校 ・知恵を合わせる楽しさが分かる学校 **4. 創造する学校** ・新しいよりよいことを作り上げていく学校 ・多くのアイディアにあふれる学校 ・自由な発想ができる学校 **5. 信頼される学校** ・一人一人が使命感をもって仕事をする学校 ・きちんと謝れる学校 ・感謝の気持ちを忘れない学校 **6. 本質を見失わない学校** ・見た目や思い込みに流されない学校 ・あたりまえを疑うことができる学校
教育目標を達成するための基本方針	**1** 特別活動や道徳教育を通して主体的に関わっていける豊かな人間関係を築く児童を育てる。 **2** 児童の気付きを大切にし、分かる喜びが実感できる授業を実践することで深い学びを追求していく児童を育てる。 **3** 地域の中で育まれてきた自校の歴史と伝統を知り、学校や地域の集団の中で活躍できる児童を育てる。 **教職員が生き生きと誇りを持って教育活動をすることで、自己有用感をもった魅力的な子どもを育て、地域の期待に応える学校を作る。**		

今　年　度　の　重　点

	A　重点目標	B　中期経営目標（数年間でどのような状態にするか）	C　短期経営目標（今年度末までにどのような状態にする）
1	特別活動や道徳教育を通して児童の自己有用感を高め、主体的に関わっていける豊かな人間関係を築ける児童を育てる。	各学校行事において、児童一人一人に明確な目当てをもたせることで、意欲的に活動に取り組み、自信をもって人前で自己表現ができる。	各行事ごとに個別の取り組み目標を持たせ、目当てを自覚しながら活動に取り組み、必ず振り返りをすることで児童一人一人に達成感をもたせることができる。
		集会活動、縦割り班活動、複数学年合同授業を積極的に行うことで、上学年児童の自立を強力に促し、下学年の児童に思いやりをもって接し、下学年児童からあこがれる存在となることができる。	委員会活動での発表や常時活動にて、自己の役割の大切さを理解させ、使命感をもたせて取り組むことができる。
		道徳授業の中で、児童一人一人の多様な思いや考えを引き出す工夫を最大限に行うことで、様々な考え方や価値観に気付き、自分の生き方考え方について深く思いを巡らすことができる。	道徳教育研究を3年にわたって行った成果を生かし、道徳授業における中心発問を吟味し、児童が主体的に考えを深めていくことができる授業実践を行う。
2	児童の気付きを大切にし、授業の中で児童が頭を悩ませ考え、分かる喜びが実感できる授業を実践することで深い学びを追求していく児童を育てる。	1時間1時間の授業を作る上で、常に児童の実態把握に努め、児童の学びの最近接領域を指導の中心に設定することで児童の、主体的で深い学びを引き出すことができる。	授業を組み立てる際に、単元のねらいに即した児童の周辺知識について把握することが大切であることを教師が理解し、児童の知っていること、知らないことを把握した上で授業をすることが児童の主体的で深い学びにつながることを知ることができる。
		1時間1時間の授業の中でポイントとなる部分（場面）を教師が把握し、意図的に発問を工夫することで児童の多様な考え方を引き出すことができる。	1時間の授業の中心となる部分を常に意識をして授業を組み立てていく意識付けを教員一人一人に行っていく。本年度は授業観察の際に授業をポイントを必ず明記させるようにする。
		1時間1時間の授業の中で、児童同士が考えを深めていけるような、意義のある話し合い活動をすることができる。	単なる意見表明で終わってしまう形式的な話し合いから脱却し、意義ある話し合いができるようにファシリテーションの方法論を教師が学び、児童の中で良好なファシリテーターを育てることができる。
3	地域の大切さ、ありがたさを知り、地域の中で育まれてきた自校の歴史と伝統を知り、学校や地域の集団の中で活躍できる児童を育てる。	開進第二小学校は明治・大正・昭和・平成と４つの時代を経験し、新たな5つめの令和の時代に臨んでいることを理解し、時代と共に変わったこと、変わらないことを知ることで児童一人一人が歴史について考えることができる。	低・中学年の地域学習の中で、高学年の歴史の授業の中で、常に明治以降の時代の流れについて意識をした指導を繰り返し行っていく。その中で時代と共に変わったことと変わらないことがあることを知ることができる。
		地域学習を通して、地域の大人達が地域のために協力したり努力していることを知り、地域の中で育てられている自己を自覚することができる。	地域学習の中で地域のために思いをもって努力をしている人々がいることに気付き、そのために自分たちが安心して暮らすことができていることに気付くことができる。
		地域行事やPTA、学校応援団等の取り組みに積極的に参加することで地域の大人達の思いを知り、その中ではつらつと前向きに暮らすことができる。	夕涼み子供会（7月）、桜台睦み会秋祭り（子供神輿・9月）、避難拠点訓練（10月）、ふれあい祭り（11月）、桜台自治会子供夜警（12月）等の地域行事に本校児童が多数参加し、子供達が地域の活性化の核になるよう、職員を含め取り組んで行く。

重点目標を達成するための今年度の取り組みと評価基準・評価結果

A重点	C短期経営目標（年度末までにどのような状態にするか）	具体的な方策	具体的な取り組み 評語	取組に関する指標（可能な限り数値で）	成果 評語	成果指標（可能な限り数値で）	自己評価 取組指 年間	成果指標 年間	考察(コメント)	改善策	学校関係者による評価 評語	主な意見
1 自主・自立	各行事ごとに個別の取り組み目標を持たせ、目当てを自覚しながら活動に取り組み、必ず振り返りをすることで児童一人一人に達成感をもたせることができる。	学校行事、学年行事、クラス行事を問わず行事に取り組む際に集団の目当てと個人の目当てを明確にして自己評価を行う。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	A	A	各学級が毎学期当初に個人の学期の目当てを設定し、学期末に振り返ることができている。行事ごとの個人目標も決め、取り組むことができた。	学期や行事ごとに目当てをきめ、振り返りができることは本校のよいスタンダードであり、児童の成長に繋がっている。引き続き取り組んでいく。	A	○全体的に学校の評価は厳しいと感じた。 ○教員の目標が高く、児童は満足しているのではないかと考える。
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
	委員会活動での発表や常時活動にて、自己の役割の大切さを理解させ、使命感をもたせて取り組むことができる。	委員会活動やクラスでの当番活動での活動の意義ややりがいを自覚させ、取り組み状況を細かく把握し評価していく。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	B	A	ほとんどの学級で当番活動と係活動を明確に区別し、集団のための役割を担うことの大切さを児童に自覚させることができている。	全学級で統一して取り組めるようにしていく。	A	
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
	道徳教育研究を3年にわたって行った成果を生かし、道徳授業における中心発問を吟味し、児童が主体的に考えを深めていくことができる授業実践を行う。	道徳授業実践後に必ず授業反省を行い、児童による主体的な学びが十分行われたかを検証していく。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	D	C	道徳授業自体はどの学級でも計画的に行うことができている。しかし自分ごととして主体的に教材に関わりながら学ぶようになるには授業の工夫が必要である。	道徳授業を突破口としてすべての教科において「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実施していくことがこれからの大きな課題である。	B	
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
2 深い学び	授業を組み立てる際に、単元のねらいに即した児童の周辺知識について把握することが大切であることを教師が理解し、児童の知っていること、知らないことを把握した上で授業をすることが児童の主体的で深い学びにつながることを知ることができる。	新しい単元に入る段階で児童の実態を周辺知識も含め、把握することをできるだけ多く実践していく。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	C	B	各学級や専科授業において新たな単元に入る際に既習事項の確認はできている。	各児童がもっている学習内容に関する周辺知識を把握することについてはまだまだ取り組みができていない。次年度の1番の課題としたい。	C	○児童の79%が、「授業が楽しい。」と感じているのならば、学校の評価でCをつけることはないのではないかと考える。実態と乖離しており、できている。 ○教員の過小評価ではなく、「授業は面白いですか。」という質問では、子どもは「とてもそう思う。」とつけにくかったのではないかと考える。質問の仕方で答え方は変わると思う。
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
	1時間の授業の中心となる部分を常に意識をして授業を組み立てていく意識付けを教員一人一人に行っていく。本年度は授業観察の際に授業をポイントを必ず明記させるようにする。	１時間の授業の中で指導の工夫としてのポイントを強く意識した授業実践をできるだけ多く行う。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	B	C	授業に満足している児童がまだまだ少ない。主体的に学べていないということが分かる。保護者の意見も同等である。	授業に対する教員の意識をさらに高めていく必要がある。専門教科を定め教材研究を突き詰めていく経験をさせていく。	A	
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
	単なる意見表明で終わってしまう形式的な話し合いから脱却し、意義ある話し合いができるようにファシリテーションの方法論を教師が学び、児童の中で良好なファシリテーターを育てることができる。	ファシリテーションの手法を知り、多くの教員が授業で有効活用することができる。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	D	C	管理職から授業の手法の一つとして教員に提示したが、その有効性は認知したが定着はしなかった。	児童同士の話し合いのスタイル自体を抜本的に変えていかなければならない。教師の意識改革を促していく。	A	
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
3 地域との関わり	低・中学年の地域学習の中で、高学年の歴史の授業の中で、常に明治以降の時代の流れについて意識をした指導を繰り返し行っていく。その中で時代と共に変わったことと変わらないことがあることを知ることができる。	低学年での昔の暮らしの学習、中学年での地域学習、高学年での歴史学習において開進第二小地域の様子ともに社会を捉える指導を実践する。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	D	B	90周年で作成した記念誌の活用ができていない。児童の学習用に編集されているため100周年に向けても地域の歴史を児童に定着させるためにも有効活用したい。	学校図書館に40冊90周年記念誌を配備をした。児童の調べ学習に有効に活用していく。	D	○地域との連携はうまくいっていると感じている。先生方の評価に対するD評価です。 ○教職員はよく地域行事に参加している。緑化指導員等、ゲストティーチャーも活用できているため、学校のD評価は不適切であると考える。
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
	地域学習の中で地域のために思いをもって努力をしている人々がいることに気付き、そのために自分たちが安心して暮らすことができていることに気付くことができる。	各学年、教科の指導において地域人材を活用した授業を行うと共に地域の方の地域や子供達への思いを伝える機会を設定し、児童の郷土愛を育む。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	D	C	生活科、社会科、総合的な学習の時間等で地域教材や人材を活用した授業は展開できているが系統立てた指導にはなっていない。	地域学習の全体計画を策定する必要があると考える。さらに地域人材の更なる発掘、リスト化を進めていく。	D	
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						
	夕涼み子供会（7月）、桜台睦み会秋祭り（子供神輿・9月）、避難拠点訓練（10月）、ふれあい祭り（11月）、桜台自治会子供夜警（12月）等の地域行事に本校児童が多数参加し、子供達が地域の活性化の核になるよう、職員を含め取り組んで行く。	日常から地域行事について話をすることで児童の意識を高めると共に行事への参加率を高め、地域の活性化を図る。	A	教職員のアンケートでA,B評定90%以上	A	児童・保護者アンケートでA,B評定９０%以上	D	C	児童の地域行事への関心は高い。児童が自分たちへの地域の期待について改めて考えることが必要と考える。	高学年になるに連れ、当たり前のように参加している地域行事だが、そこに関わる地域の大人たちにより関心を持てるよう指導の工夫をしていく。	D	
			B	教職員のアンケートでA,B評定80%以上	B	児童・保護者アンケートでA,B評定８０%以上						
			C	教職員のアンケートでA,B評定70%以上	C	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%以上						
			D	教職員のアンケートでA,B評定70%未満	D	児童・保護者アンケートでA,B評定７０%未満						

＊学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A　自己評価は適切である　B　自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している　C　自己評価と実態との差が大きい　D　自己評価方法を見直す必要がある